

## 完了後の評価個表

整理番号	29
------	----

事業名	森林環境保全整備事業	都道府県	鹿児島県
地域（地区）名	おおすみ 大隅	事業実施主体	県、市町、森林組合等
関係市町村	かのやし 鹿屋市ほか8市町	管理主体	県、市町、森林組合等
事業実施期間	H23年度～H29年度（7年間）	完了後経過年数	5年

<p>事業の概要・目的</p>	<p>本地区は、鹿児島県の大隅半島全域に位置し、西部は<sup>おおのがらだけ</sup>大筥柄岳を主峰とする<sup>たかくま</sup>高隈山系が連なり、中央部には<sup>きもつき</sup>肝属平野が広がっている。また、東南部には<sup>くにみだけ</sup>国見岳を主峰とする<sup>くにみ</sup>国見山系が連なっており、これらの山系からは多くの河川が太平洋や鹿児島湾に注いでいる。</p> <p>本地区の総面積210千haのうち、森林面積は132千ha（森林率63%）、うち民有林が84千ha（63%）となっている。また、民有林の人工林面積は48千ha（人工林率57%）と県平均43%と比べて高く、県内でも早くからスギを主体とする人工林化が進められてきた地区であり、7齢級以上の利用期を迎えた森林が87%を占め、増大する森林資源の利用と適正な管理が必要となっている。</p> <p>このような充実した森林資源を背景に、本地区では活発な木材生産が行われており、<sup>しぶし</sup>志布志からの木材輸出やCLT等の新たな木材需要も創出されつつある。</p> <p>このため、計画的な間伐や主伐後の確実な再生林により、「植える、育てる、使う、植える」という森林資源の循環利用を促進し、森林の有する公益的機能の持続的な発揮を図ることが重要な課題となっている。</p> <p>このような背景を踏まえ、本事業では大隅地域森林環境保全整備事業計画に基づき、再生林や間伐等の森林整備を積極的に実施するとともに、森林施業及び木材生産の効率化に不可欠な路網整備を一体的に実施した。</p> <p>・主な事業内容 森林整備 10,190ha 人工造林、下刈り、間伐、森林作業道整備等 路網整備 8,099m 林道開設</p> <p>・総事業費 6,768,366千円（税抜き6,358,455千円） （平成22年度の評価時点 3,136,572千円）</p>
-----------------	--

<p>① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化</p>	<p>令和5年度時点における費用便益分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>なお、大隅地域森林計画の次期策定までの期間に合わせ、事業計画期間を2年延長したこと、</p> <p>地域の要望等を踏まえ、林業専用道の開設等を追加したことにより、総費用及び総便益が変更増となり、B/Cが増大している。</p> <p>総便益（B）142,335,222千円（平成22年度の評価時点 16,785,234千円）      総費用（C）16,319,898千円（平成22年度の評価時点 3,530,317千円）      分析結果（B/C）8.72（平成22年度の評価時点 4.75）</p>
<p>② 事業効果の発現状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10,190haの森林が整備され、水源涵養や山地保全等といった森林の有する公益的機能の維持増進が図られた。また、路網整備と高性能林業機械を組み合わせた低コスト作業システムを導入するなど、効率的な作業が行われ、木材の安定供給に寄与した。</li> <li>・ 林道の開設等により、8,099mが整備され、森林整備事業地までの到達時間の短縮や木材運搬等が容易になったことで、木材搬出等の効率化に寄与した。</li> </ul>
<p>③ 事業により整備された施設の管理状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 整備された森林は、森林経営計画等により継続して適切に管理されており、良好な管理状況にある。</li> <li>・ 整備された林道は、林道維持管理規程に基づき適切に管理されており、良好な管理状況にある。</li> </ul>
<p>④ 事業実施による環境の変化</p>	<p>森林整備の実施により良好な森林が形成され、水源涵養や山地保全、木材の安定供給等といった多面的機能が発揮されている。</p>
<p>⑤ 社会経済情勢の変化</p>	<p>森林資源の充実を背景に活発な木材生産が行われ、県産材の主要な供給地となっている。また、大型木材加工施設の整備やCLT加工施設の増設、木材輸出など新たな木材需要が創出されてきている。</p>
<p>⑥ 今後の課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本格的な利用期を迎えている森林資源を循環利用することにより、森林の公益的機能の持続的な発揮を図りつつ、林業の成長産業化を実現していくことが重要である。</li> <li>・ 森林施業の集約化を図りながら、計画的な間伐や再造林等の森林整備及びその実施に必要な路網の整備を一層推進する必要がある。</li> </ul> <p>地元の意見：      （鹿児島県、鹿屋市ほか3市5町）</p> <p>森林整備事業の実施により、水源涵養や山地保全等の公益的機能の発揮及び林道整備により、持続的かつ効率的な木材供給に寄与している。</p> <p>今後も関係者と連携を図りながら森林整備事業に取り組んでいく。</p>

評価結果	<p>必要性： 水源の涵養や土砂の流出防止等といった森林の有する公益的機能を持続的に発揮させるためには、主伐後の植栽や間伐等の森林整備が必要であることから、事業の必要性が認められる。</p> <p>効率性： 森林整備では、森林施業の集約化を推進し、施業内容に応じて路網整備と高性能林業機械を適切に組み合わせた低コスト作業システムの定着を図ってきている。また、林道整備では、現地の状況に応じた効果的かつ効率的な工種・工法を採用し、コスト縮減に努めており、費用対効果の分析結果からも、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性： 森林資源の現況や路網の整備状況を踏まえた計画的な事業の実施により、森林の有する多面的機能の維持増進が図られ、引き続き、その効果が適切に発揮されていることから、事業の有効性が認められる。</p>
------	--

※平成 22 年度評価時点における数値について、消費税を含んだ数値である。

# 便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業

都道府県名：鹿児島県

地域(地区)名：大隅

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	34,780,649	
	流域貯水便益	12,135,482	
	水質浄化便益	46,446,005	
山地保全便益	土砂流出防止便益	28,536,045	
環境保全便益	炭素固定便益	8,972,027	
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	71,429	
	木材利用増進便益	42,285	
	木材生産確保・増進便益	8,719,612	
森林整備経費縮減等便益	森林管理等経費縮減便益	75,269	
	森林整備促進便益	2,295,130	
災害等軽減便益	災害復旧経費縮減便益	261,289	
総 便 益 (B)		142,335,222	
総 費 用 (C)		16,319,898	
費用便益比	$B \div C = \frac{142,335,222}{16,319,898} = 8.72$		

